

## (4) 教育制度

スリランカの教育制度は、イギリス植民地時代の遺産を継承しながら発展してきました。

日本では、小学校、中学校、高等学校と別々に学校がありますが、スリランカでは、多くの場合、小学生から高校生まで一つの学校で勉強しています。

小学校の入学年齢は5才で、5学年（グレード5）修了時に全国共通の試験を行い、成績優秀な学童には奨学金が支給され、有名校に行く選択権も与えられます。

制度としては、グレード10までが義務教育ですが、高等学校に入学するまでに数ヶ月かかることから、グレード11という学年の生徒もいます。

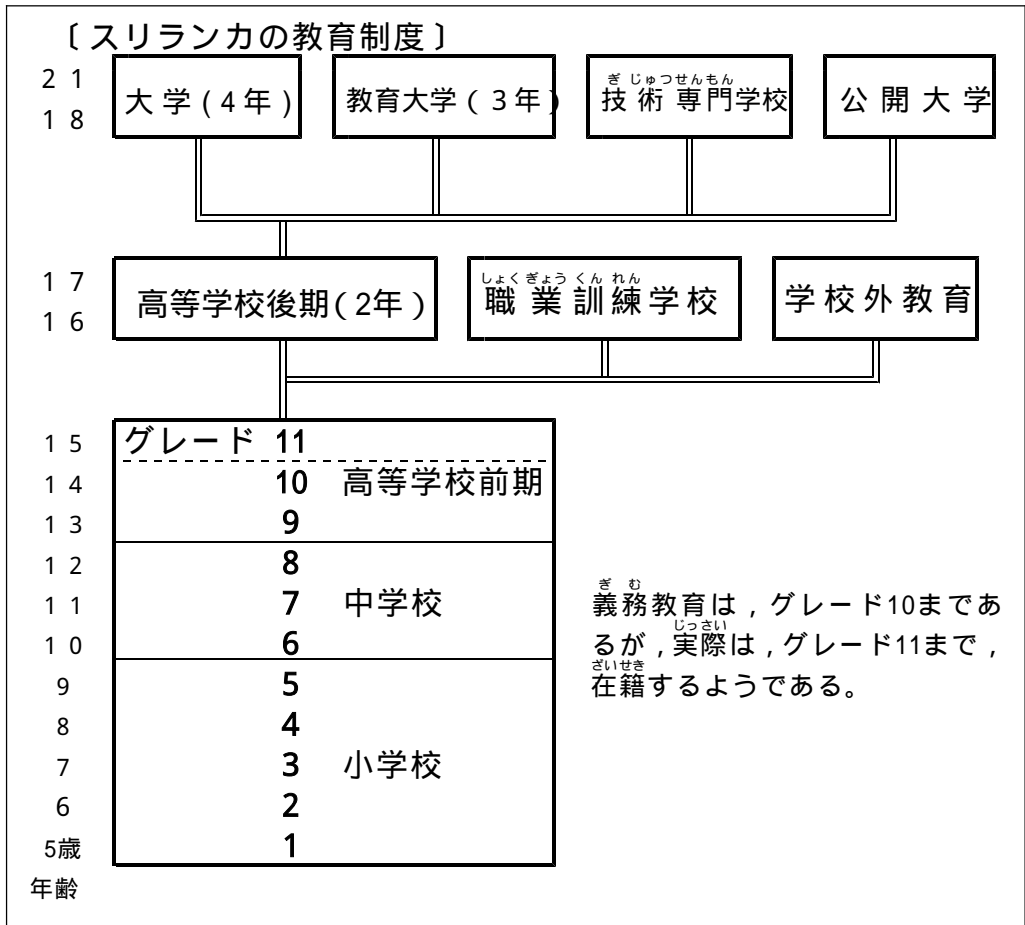
義務教育が修了すると、Oレベル試験を受けて高等学校へ進学するか、就職したり、職業訓練コースへ行くか決めますが、コロンボ市では、ほとんどの生徒が高等学校へ進学します。

高等学校2年の教育を修了すると、全国共通のAレベル試験の受験資格ができます。この試験の成績にしたがって、主要都市に所在する、8総合大学への入学志望者の合否が決定します。

小学校の入学から大学卒業まで、公教育は原則として無償です。

公教育における公用語は、シンハラ語とタミル語ですが、いくらよい成績であっても、英語の読み書き会話が十分にできないと卒業後の就職は困難のようです。このため、公立学校でも小学校1年生から英語の教育を行うことになりました。また、インターナショナルへ通うスリランカの子どもたちも増えてきています。インターナ

シヨナル・スクールは、1993年に、コロンボを中心に60校を越えたとされています。



ロイヤルカレッジ校との交流学習のようす 平成18年5月